



社会言語科学会ニュースレター

The Japanese Association of Sociolinguistic Sciences

第 1 4 号

2003 年 1 月 31 日 発行：社会言語科学会事務局
〒214-8580 川崎市多摩区東三田 2-1-1 専修大学文学部永瀬研究室気付
電話/ Fax: 044-911-0688 E-mail: thb0308@isc.senshu-u.ac.jp
<http://www008.upp.so-net.ne.jp/jass/> (変わりました)

《巻頭言》

「バーリ・テウード」な科学を目指して

社会言語科学会理事

千葉大学文学部

伝 康晴

ボブ・サップが大人気である。格闘技とはおよそ縁のない主婦たちでも知っている。最近バラエティー番組でよく見かけるが、本業はシビアな闘いを強いられる総合格闘技である。

総合格闘技とは、レスリング、ボクシング、柔道・柔術などジャンルを超えたさまざまな選手が、同じルールのもとで闘うスポーツである。そこでは、「バーリ・テウード」というルールが採用されている。バーリ・テウード(vale tude)とはポルトガル語で「何でもあり」という意味であり、頭突き・目潰し・金的攻撃などを除いて、文字通り、何をやってもかまわない。こう聞くと驚くかもしれないが、どのジャンルの選手にも不公平のない、よくできたルールなのである。

異なるジャンルの選手がぶつかるときに、つねにルールの問題がつきまとう。これは、かつての猪木・アリ戦（プロレス対ボクシング）で顕著であった（プロレス技をすべて禁止された猪木は、寝た状態で相手の足を蹴るという攻撃だけで闘った）。プロレスから分岐した総合格闘技の創成期においても、派手な見せ技を排し、絞め技・関節技で競い合うという形態を取っていたものの、ローブレイクや顔面攻撃禁止を残すなど、プロレスのルールを少し修正したものという感があった。

それで、プロレスとの違いがだんだんはっきりしなくなり、行き詰まっていった。

現在の総合格闘技の成功は、既存のジャンルにこだわらず、いったん、バーリ・テウードという原始的な状態に戻ったことにあるように思える。それを出発点とし、ただのケンカにならずスポーツとして成立するように、徐々に制限を加えていったのである。

さて、研究の話をしよう。私の研究テーマは、会話インタラクションのミクロな分析である。これには、認知心理学・会話分析・語用論・言語哲学・情報工学・発達心理学・第二言語教育・異文化コミュニケーション論など、ほんとうにさまざまなジャンルが関わってくる。難しいテーマだからこそ、こういった異分野間の交流が大切であると考え、ときには率先して交流を進めてきた。その効果は本学会などにうまく反映されていると思うが、その一方で、創成期の総合格闘技に見られたようなある種の硬直感を感じている。やはり既存のジャンルから脱却できていないのである。

コミュニケーション科学が次のステップに進むためには、既成概念にとらわれない、思い切った斬新なアイデアが必要である。それには、「バーリ・テウード」の精神で、どんなに素朴な方法であれ何でも試してみる、といったことが必要ではないだろうか。異分野の融合ではなく、新しい分野の創成という方向に進んでいけたらと思う。

(でん やすはる)

2-4 第 11 回研究大会プログラム

3 社会言語科学の未来を作る会第 2 回集会のお知らせ

5 第 12 回研究大会のお知らせ・研究発表の募集／博士論文情報

6 学会誌『社会言語科学』：特集号テーマの募集・書評候補の募集／アジア辞書学会(Asialex '03 Tokyo)のお知らせ

7 研究最前線／理事監事候補者推薦の管理委員会からのお願い

第11回社会言語科学会研究大会プログラム

期日 2003年3月8日(土)・9日(日)

場所 立教大学 池袋キャンパス

〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1

http://www.rikkyo.ne.jp/~koho/univ_data/accessmap/index.html 参照

JR 山手線・埼京線・高崎線・東北本線、東武東上線、西武池袋線、地下鉄丸ノ内線・有楽町線
「池袋駅」下車 西口より徒歩約7分

プログラムの最新情報は学会ホームページに掲載されておりますので、併せてご覧ください。

第1日目 3月8日(土) 9:30 受付開始 [12号館1階ロビー] 10:00 開会

10:00-10:45 基調講演1 [8号館8202教室]

10:45-12:15 研究発表/口頭 2会場で同時進行

〔研究発表1/口頭：A会場（8号館8201教室）〕

10:45-11:10 日本語における「前」と「後」の認知と表現

大館実子(国際基督教大学)・
松中義大(東京工芸大学)・
篠原和子(東京農工大学)
香西壮一・乗船夫佐
(関西外国語大学)

11:15-11:40 Cognitive Account for Tense-Verb Disagreement
in Japanese and English: (Misleading) Use
of the Past Tense Form for the Present State

11:45-12:10 日・韓両語の身体語彙表現の比較研究
—「目／眼」を中心として—

李 明玉(学習院大学)

〔研究発表2/口頭：B会場（8号館8202教室）〕

10:45-11:10 滞日韓国人年少者のパイリンガリズムと
友達ネットワーク形態について

朴 良順(東京都立大学)

11:15-11:40 シンガポールの日本語教室における異文化コミュニケーション
Intercultural Communication in the Japanese
Language Classrooms in Singapore

Lai Siew Hoon(九州大学)

11:45-12:10 女性における一人称の呼称の言語行動学的研究

秋葉聡子(日本興亜損保)

12:15-13:15 休憩 (理事・監事は理事会 会場：12号館第3会議室)

13:15-14:45 講演 [8号館8201教室]

〔演題〕 文化心理学と進化心理学は共存しうるか？

講演者 波多野隼余夫 (放送大学)

15:00-18:00 ポスター発表 (8号館2階・3階ロビー)
(SLUD研究会と合同開催)

- P-01 英語呼称の会話における役割
—呼称頻度に関する一考察—
山崎優子(下関市立大学)
- P-02 二者間の関係性と呼称の研究
荒川 歩(同志社大学)
- P-03 接触場面における話段の形成過程について
西條美紀(東京工業大学)
- P-04 討論における再構築発話の役割
乾 裕子(通信総合研究所/神戸大学/計量計画研究所)・高梨克也(通信総合研究所)・矢嶋宏光(計量計画研究所)・井佐原 均(通信総合研究所/神戸大学)
- P-05 チャット対話における話の流れの同定要因の分析
小倉加奈代・石崎雅人
(北陸先端科学技術大学院大学)
- P-06 日本語ディスコースにおける謝罪の機能
—依頼の前置きとしての謝罪に関して—
北 綾子(日本女子大学)
- P-07 女子短期大学生の敬語使用における意識と傾向
永正理恵子(鹿児島純心女子短期大学)
- P-08 語用論の観点から見た文末表現の使用
—「ケド」を例にして—
許 夏玲(東京学芸大学)
- P-09 効率性から見た発話交換構造間の関係性
金城由美子(ATR 音声言語コミュニケーション研究所)・森本郁代(通信総合研究所)
- P-10 会話の聞き手はいつ話し始めるか: 話者交代規則は過ぎ去った完結点に遡及して適用される
榎本美香(千葉大学)
- P-11 受け手になること、次話者になること
—話者交代規則再考—
伝 康晴(千葉大学)
- P-12 ドラマの中の子どもの日本語
秦野悦子(白百合女子大学)
- P-13 日本語の談話ストラテジーの性差習得について
—大人と子どもの相互作用を通して—
仲田陽子(関西大学)
- P-14 スペイン語を母語とする児童の発話に用いられる日本語名詞の数の一致
久津木 文(神戸大学)
- P-15 意味解釈と語彙情報—日本語名詞句「AのB」を例に
菊池隆典・白井英俊(中京大学)
- P-16 幼児語彙におけるアクセントの分布: 3方言の比較
白勢彩子(日本学術振興会/名古屋大学)
- P-17 『日本語話し言葉コーパス』を用いた談話構造と韻律との関係に関する一考察
小磯花絵・米山聖子(国立国語研究所)・榎 洋一(東京都立大学/国立国語研究所)・Janice Fon (National Taiwan Normal University)
- P-18 XML スキーマ言語と対話例を用いた音声対話システムの自動構築手法
重野真也・井上武史・荒木雅弘(京都工芸繊維大学)
- P-19 ラジオ番組収録のための音声インタフェースの設計と評価
住吉悠希・荒木雅弘(京都工芸繊維大学)・西本卓也(東京大学)
- P-20 対面会話におけるジェスチャーの空間参照枠と左右性
細馬宏通(滋賀県立大学)
- P-21 視野画像情報を用いた参与構造の解析
坊農真弓(神戸大学/ATR メディア情報科学研究所)・鈴木紀子(ATR メディア情報科学研究所)・片桐恭弘(ATR メディア情報科学研究所/神戸大学)
- P-22 看板広告にみる空間指示枠の指向性について
片岡邦好(愛知大学)
- P-23 顔文字が文章の信頼度に及ぼす影響 (4)
中丸 茂(イオンド大学)

18:00-20:00 懇親会【会場：第一食堂】

社会言語科学の未来を作る会 第2回集会のお知らせ

企画委員会では、研究大会懇親会後、下記の通り、本学会の「第2回 未来を作る会」を開催します。本学会をよりおもしろく、参加する意義の感じられるものにしていくための意見をぶつけあう会です。前回の第1回での提案を受けて、3月の研究大会では、プログラムの構成を見直しています。また、編集委員会でも、提案を受けた改革を実行しています。「本学会を、このようにしたい」という気持ちをお持ちの方、ぜひ「未来を考える会」にご参加ください。会員の方でしたら、どなたでも参加できます。

開催日時： 2003年3月8日(土) 20:00~21:00 懇親会終了後

場 所： 立教大学第一食堂(懇親会会場)

懇親会、未来を作る会に連続参加された方には、懇親会費を1,000円キャッシュバック!!

主催：社会言語科学会企画委員会

第2日目 3月9日(日) 9:30 受付開始 (12号館1階ロビー) 10:00 開会

10:00-10:45 基調講演2 (8号館8202教室)

10:45-12:15 研究発表/口頭 2会場で同時進行

〔研究発表3/口頭：A会場(8号館8201教室)〕

- | | |
|--|---------------------------|
| 10:45-11:10 「形式ほめ」の条件とその印象 | 大野敬代(早稲田大学) |
| 11:15-11:40 ポライトネスイロストラテジーが日本人英語学習者に与える
影響と効果について | 村田和代(龍谷大学)・
大谷麻美(専修大学) |
| 11:45-12:10 日本人と韓国人の敬意表現の対照分析
—韓国語母語話者用日本語教材開発に向けて— | 松村瑞子・李 奈娟・金 宥
(九州大学) |

〔研究発表4/口頭：B会場(8号館8202教室)〕

- | | |
|--|------------------|
| 10:45-11:10 韓国における接客言語行動の一端—デパートと市場の比較— | 金 美貞(大阪大学) |
| 11:15-11:40 自己の態度に反した説得場面における
言語的・非言語的行動の研究 | 磯 友輝子・大坊郁夫(大阪大学) |
| 11:45-12:10 保育者と子どもの「問いかけ—返答」の様式と
子どもの社会化について | 若松美記子(一橋大学) |

13:15-14:45 研究発表/口頭 2会場で同時進行

〔研究発表5/口頭：A会場(8号館8201教室)〕

- | | |
|--|-------------|
| 13:15-13:40 幼児の特殊拍の意識と表記習得に関する研究
—モラ方言地域とシラビーム方言地域との比較を中心に— | 嵐 洋子(大阪大学) |
| 13:45-14:10 日本語話し言葉における子音「脱落」の実態
—『日本語話し言葉コーパス』を資料にして— | 岡田祥平(大阪大学) |
| 14:15-14:40 商標の普通名称化問題における言語学的論点
—ウォークマン事件を中心 | 首藤佐智子(東京大学) |

〔研究発表6/口頭：B会場(8号館8202教室)〕

- | | |
|---|----------------|
| 13:15-13:40 心的距離の変化によるスタイル切換え—依頼行動の韓日対照— | 李 吉鎔(大阪大学) |
| 13:45-14:10 謝罪行為に関する性差—日・韓両言語の対照を中心に | 金 秀容(東京都立大学) |
| 14:15-14:40 談話展開研究に関する方法論の日米対照研究
—談話展開の対照言語学的研究のために— | 田中香織(フェリス学院大学) |

15:00-18:00 ワークショップ 2会場で同時進行

ワークショップ1〔会場：8号館8201教室〕

〔テーマ〕 相互行為と文法：会話分析の可能性2

企画責任者： Scott Saft (筑波大学)
 話題提供者： Scott Saft (筑波大学)
 細田由利 (昭和女子大学)
 高木智世 (慶應義塾大学)
 指定討論者： Dominic Berducci (富山県立大学)
 西阪 仰 (明治学院大学)

ワークショップ2〔会場：8号館8202教室〕

〔テーマ〕 メディア化された言語—メディア上の言語を対象とした研究の分析アプローチの諸相

企画責任者： 三宅和子 (東洋大学)
 話題提供者： 三宅和子 (東洋大学)
 本田厚子 (専修大学)
 竹野谷みゆき (札幌学院大学)

18:00 閉会

第12回研究大会は以下の予定で行われます

期日 2003年10月4日(土)・5日(日)

場所 大阪大学 吹田キャンパス (<http://www.osaka-u.ac.jp/jp/accessmap.html> 参照)

所在 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-1 電話 06-6877-5111 (代)

交通 阪急電車千里線「北千里駅」(終点)下車 東へ徒歩約30分
大阪モノレール「阪大病院前」下車 徒歩約5~15分

研究発表の募集

第12回大会の研究発表を以下の要領で募集します

発表種別には、口頭発表とポスター発表を設けました。ポスター発表は会員同士が直に議論や情報を交わすことのできる発表形態です。奮ってご応募をお願いします。

【発表資格】 申込みの時点で社会言語科学会の会員であること(申込と同時に入会も可。連名発表の場合、筆頭発表者・口頭発表者は本学会員である必要があります)。

【発表内容】 本学会の趣旨に沿った分野の内容で未発表のもの。(社会言語学、社会心理学、社会学、心理学、コミュニケーション論、言語学、言語人類学、文化人類学、語用論、日本語教育、英語教育、情報科学、認知科学、人工知能、その他の分野で、ことばを社会や文化・認知との関係でとらえた研究)

【発表形態】 (1)口頭発表(質疑応答を含め25分程度の発表時間を予定)、(2)ポスター発表(ポスター数件を集めてポスターセッションを構成します。発表者と聴衆が直接議論することができます。)

【応募要領】 (1)発表題目、(2)氏名、(3)住所、(4)連絡先電話/Fax番号、(5)E-mailアドレス、(6)所属、(7)職名、(8)希望発表形態(口頭/ポスター)、(9)発表要旨1,200字程度を記載したE-mailを下記アドレスに送付してください。

なお、E-mailでの応募を原則としますが、郵送でも受け付けます。その場合、上記(1)~(9)の項目をなるべくA4用紙1枚に収めるようご記載ください。※要旨の言語は日本語を原則としますが、英語でも受け付けます。

※E-mailの添付書類はできるだけ避け、通常のテキストでお送りください。

【応募先】 jass-submission@mic.atr.co.jp
〒180-0001 東京都武蔵野市吉祥寺北町 4-1-27-208
社会言語科学会研究大会委員会 阿部圭子
Fax: 0422-55-5759

【申込締切】 2003年7月10日(木)

【予稿集】 採否の結果は8月10日までに応募者に連絡します。

発表者には(口頭発表、ポスター発表とも)、発表に先だって予稿集用の原稿の執筆をお願いします。A4サイズで4ページ以内、締切期限は2003年9月10日(水)の予定です。

なお、応募の採否、発表順序などについては研究大会委員会にご一任願います。発表形態(口頭あるいはポスター)についても応募時の希望に沿えない場合もありますので予めご了承ください。

※第11回大会では、27件の発表応募があり、全応募を採択させていただきました。

博士論文情報 (2002年8月10日~2003年1月21日受付分)

- 日本語習得における人間関係の認知と文化的要因に関する考察—中国人および台湾人留学生を対象として—
山口和代 名古屋大学大学院国際開発研究科 博士(国際コミュニケーション) 2002.3
- Conversational Negotiation in Chinese-Japanese Interaction: An Analysis of Workplace Communication
Yuko Miyazoe-Wong (宮副ウオン 裕子)
School of Asian Studies and Languages, Monash University, Australia Ph.D. (Sociolinguistics) 2002.7
- 日本人と外国人のビジネス上の問題点に関する実証研究—新しい「日本語によるビジネス・コミュニケーション」の構築に向けて—
近藤 彩 お茶の水女子大学 博士(人文科学), Ph.D. (Applied Linguistics) 2002.12
- 本学会の趣旨に沿った分野の内容で書かれた、2002年度の博士論文一覧を、順次、ニュースレターに掲載する予定です。(1)論文タイトル、(2)著者名、(3)博士号授与機関、(4)博士号の分野、(5)取得年月の情報を下記までお送りください。要旨・抄録は掲載いたしませんのでご了承ください。

社会言語科学会事業委員会 jassjigy@cf6.so-net.ne.jp

特集号テーマの募集

学会誌 『社会言語科学』

『社会言語科学』では、特集号を発行しています。これまでに「日本の言語問題」(第2巻第1号)、「日本語と言語接触」(第3巻第1号)、「電子社会の言語科学」(第4巻第1号)、「言語の対人関係機能と敬語」(第5巻第1号)の特集が実現し、現在「コミュニケーションの社会言語科学」(第6巻第1号の予定)の特集が進行中です。よい特集のテーマがありましたら、学会誌編集委員会委員長までご提案ください

学会誌編集委員会委員長 岡 隆 E-mail: oka@l.u-tokyo.ac.jp ("l"は英字のエルです)

書評候補の募集

『社会言語科学』では、毎号2, 3本の書評を掲載してきました。書評欄の一層の充実をはかるために、学会誌編集委員会内に書評担当編集委員をおきました。よい書評候補がありましたら、書評担当編集委員と学会誌編集委員会委員長までご推薦ください。ご推薦には、①書評対象図書名、②書評候補者(会員に限る)、③図書の推薦理由(2, 3行)をお含みくださり、書評担当編集委員と委員長の両方にお送りください。なお、書評の投稿につきましても、従来通り受け付けます。

書評担当編集委員 渋谷 勝己 E-mail: shibuya.katsumi@nifty.ne.jp

学会誌編集委員会委員長 岡 隆 E-mail: oka@l.u-tokyo.ac.jp

アジア辞書学会 (Asialex '03 Tokyo)

アジア辞書学会の第3回大会がこの夏、日本で開催されます。

辞書学の国際学会大会としては日本で初めて開かれるもので、社会言語科学会も後援団体となっております。辞書学及びその周辺分野に興味をお持ちの方は是非ご参加ください。

大会日程: 2003年8月27日(水) - 29日(金)

会場: 明海大学(千葉県浦安市)

大会テーマ:

辞書と言語学習—外国語学習・自然言語処理の分野で辞書はどう貢献できるか?—

国内外の研究者による辞書学のみならず、教育学・英語学・国語学・コーパス言語学・翻訳論・自然言語処理など幅広い分野からの研究発表・シンポジウム・ポスターセッションが予定されており、外国語教育にさまざまな形で携わっている研究者の交流が期待される。

また招待講師による講演が以下のように予定されている(タイトルは仮):

Henri Béjoint (Université Lumière-Lyon 2, France) "Modern lexicography: past, present and future"

Adam Kilgarriff (University of Brighton, UK) "What corpora can do and cannot do for lexicography"

南出康世(大阪女子大学) "State of the art in English bilingual lexicography in Japan"

Anne Pakir (National University of Singapore) "English as a lingua franca and implications for dictionary making".

参加費(国内参加者): 一般早期 ¥10,000, 一般通常 ¥15,000; 学生早期 ¥5,000, 学生通常 ¥8,000; 当日会費 ¥3,000(プログラムのみ)(早期申し込み: 3月1日-5月31日; 通常申し込み 6月1日-7月31日)
申込書や参加費振込み手続きについては URL: <http://www.asialex.org/> を参照

問い合わせ: 事務局(明海大学 投野研究室) fax: 047-350-5504

e-mail: admin@asialex.org URL: <http://www.asialex.org/>

研究最前線

引用研究の拡がり

大阪大学言語文化部
佐藤 彰

「あれ、これ何だろう？」

留学先の大学院での授業のため、日本語会話における個人的経験の物語を書き起こしていたときのことである。私は、直接話法、間接話法、またいわゆる自由間接話法のどれにも該当しない引用の例にいくつも遭遇し、またたく間にそれらに魅了されてしまった。これらをどう説明すれば、日本語が母語でない先生やクラスメートにわかってもらえるだろうか。これをきっかけに私は引用に関する文献を読みはじめた。読み進めるうちに、引用は単に文法の問題ではないことがわかってきた。

かつての引用研究では、直接話法から間接話法への変換規則や引用形式の分類、あるいは文学作品における自由間接話法の使用などが中心的課題とされていた。しかし現在では、会話や物語はもとより、報道、法廷、政治、教室、学問、広告、職場、心理療法などの様々なディスコース・ジャンル（または実践共同体）において、引用を通して社会的行為が行われ、また社会的現実が構築される点に関心が集まっている。例えば日本の皇室報道における引用を見てみよう。現代の新聞では、皇族の発言を引用する際のみならず、皇族への発言を引用する際にも、それが首相の発言であれ小学生の発言であれ、ほぼ100%が直接話法で引用される。さらにその70%から80%においては、鍵括弧（「」）はもちろん、その他の記事の引用では省略される敬意表現や代名詞などのダイクシスが積極的に使われる。これは政治や経済の記事における傾向とは大きく異なる。一方、第二次世界大戦終了前後の新聞の場合、天皇の発言は、戦前や終戦直後には文語調のことばを用いた漢字とカタカナの混交文で表記されたのに対し、終戦後数カ月してからは（特に「人間宣言」以降）口語的な表現を用いた漢字とひらがなの混交文で表記さ

れるようになる。この例から、引用する者のイデオロギーや引用される者のアイデンティティ、さらには社会における力関係が引用に反映され、また引用がそれらを再生産し、あるいは創造していることがわかる。

また引用は、優れて今日的な社会的問題である著作権と密接な関係がある。法的な議論では、ほとんどの場合権利の保護に焦点がおかれる。そのため創作性（著作者の精神活動の所産であるか否か）や引用についての考え方が曖昧なまま話が進められることがある。デジタル化が進みコピーが容易になった現代社会においては、創作性や引用についての根本的な議論は避けて通れない。

さらに引用は、英語教育にも関わりがある。日本語を母語とする大学生対象の英語ライティング教育に携わり特に興味をもったのは、学生が引用についてほとんど何も知らないということである。学生の書く英語には、例えばどこから引用したかについて全く言及がなかったり、また引用であることを明示せずにオリジナルをそのまま写してしまったりといった事例が散見される。引用についてのルールが厳しい英語のアカデミック・ライティングでは、これらは剽窃とされ強く非難される。日本から国際社会への英語による情報発信が叫ばれる中、英語ライティングにおける引用のルールをいかに教えるかは、現代の大学英語教育における重要な課題である。

加えて引用は、文化論とも接点がある。前出の剽窃という概念は、独創性や個人の創造性を重んじる西洋近代という特定の地域的、歴史的背景から生まれたものである。特定の文化的背景を基に成立した価値観や判断基準を、異なる背景をもつ社会にも適用し、一方的に非難することが果たして適切なのか。これは十分議論に値する問題である。

引用は、研究を進めれば進めるほど新たな様相を見せ、現在も私をその魅力の虜にしたままである。

（さとう あきら）

理事・監事の候補者を推薦してください

学会の理事・監事は、今年7月31日に任期満了を迎えます。ただいま、次期の理事・監事候補者の推薦を受け付けています。推薦は、すべての個人会員にいただくことができます。

推薦の締め切り：2月17日(月)(当日の消印有効)

詳しくは、昨年末にお送りした御案内・会員名簿等を御覧ください。

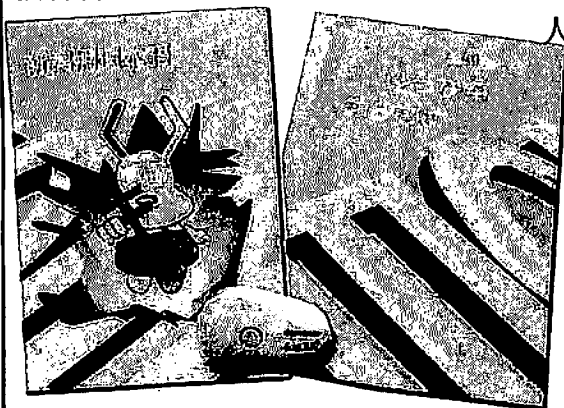
学会の更なる発展のため、たくさんの推薦をお待ちしています。

理事監事候補者推薦管理委員会
議長 杉戸清樹(国立国語研究所)

IT 中心の日本語教育は、今、圧倒的に面白い

教科書をなぞるだけで声が出たり、

人形が立ち上がって漢字になったり、



これじゃ、誰でも日本語を勉強したくなるよね。



学校法人江副学園

時代に合った教材を、時代に合わせて開発中！

新宿日本語学校

169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-9-7

03-5273-0044 URL <http://www.sng.ac.jp>



私達が抱える外国人の日本語学習者の方がIT環境に慣れている例が多くなって久しいですが、その彼等を驚かせる技術と内容がなければこれからの日本語教育も立ちいかないでしょう。私達はそれだけの自覚と覚悟をもって日本語教育に取り組んでいます。

研究に、教育に、最強のパートナー

SPSS®

✓ データ分析のあらゆるシーンをサポートするソフトウェア

統計解析ツールのスタンダード **SPSS for Windows**

国内最大級のユーザー数を誇るデータマイニングツール **Clementine**

構造方程式モデリングツールのベストセラー **Amos**

Webベースの分析アプリケーション構築 **SPSS WebApp**

✓ より便利、より経済的に.....

柔軟な導入形態をご用意

✓ SPSSアカデミックプログラムで、

ツールの習得を強力にサポート

✓ 学生の研究をサポートする、

SPSS Open House 研究奨励賞

SPSS®

Predictive Analytics

エス・ピー・エス・エス株式会社

〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-1-39 恵比寿プライムスクエアタワー10F

TEL : 03-5466-5511(代) FAX : 03-5466-5621 E-mail : jpsales@spss.com

www.spss.co.jp